

日本大道芸事典

光田典雄著 2020.07刊/B5判・580頁/22000円
大道芸の伝承家である著者の単独執筆による事典。中近世の文献資料・絵画資料から、近代の記録や啖呵口上まで、隠語も含めて239項目。挿絵600点。

オトタチバナヒメ伝承

入江英弥著 2020.06刊/A5判・402頁/8400円
東京湾沿岸部を中心にみられるオトタチバナヒメ伝説を、古事記・風土記などに記される弟橘媛入水譚との両面から考察し、その全体像を把握する。

近世の巡礼と 大坂の庶民信仰

北川 央著 2020.04刊
A5判・298頁 3800円
前著『近世金毘羅信仰の展開』に続き、西国巡礼等の庶民の旅を、供養塔や名所図会等から描く。

奄美沖縄の靈魂観

加藤正春著 2020.02刊/A5判・380頁/8000円
生と死の民俗論 死と出生直後の靈魂の超自然的な力、赤ん坊の靈魂の囲い込み、一身二靈魂観等につき、これまでの研究を整理・分析する。

現代修験道の 宗教社会学

天田顕徳著 2019.09刊
A5判・227頁 4800円
山岳信仰の聖地「吉野・熊野」の観光化と文化資源化修験道の担い手の変容と、ツーリズムの現場から。

ニソの杜と 若狭の民俗世界

金田久璋著 2018.11刊
A5判・418頁 9200円
祖霊信仰の聖地ニソの杜や、越前の田の神祭りやアイノコトなど、広く福井県の民俗世界を描く。

学校資料の未来

地方史研究協議会編 2019.05刊/A5判/2800円
地域資料としての保存と活用 学校で作成・授受・収集され保管され、地域住民のアイデンティティを支え、その歴史・文化を辿る貴重な資料。(200頁)

神社合祀 再考

由谷裕哉編 2020.07刊/A5判・190頁/2800円
日露戦後の神社合祀(神社整理)は「悪」なのか。各地での事例をもとにその通念を相対化。執筆：由谷裕哉・柏木亨介・及川高・時枝務・畔上直樹

仮装と俄の祭礼絵巻

福原敏男著 2020.03刊/A4判・184頁/12000円
近世中後期～近代の都市の臨時祭を祝う仮装文化を中心に、練物や即興のパフォーマンス「俄」(にわか)を絵画史料や文献史料により紹介。カラー96頁。

東国の祇園祭礼

坂本 要編 2019.12刊/A5判・490頁/11000円
茨城県霞ヶ浦周辺地域を中心に 1993年以来の調査と、近世以降の資料、論考・コラムなどで、神事としての古態を残す特色ある祭礼を記録・考察。

女講中の民俗誌

戸邊優美著 2019.02刊/A5判・308頁/7400円
牡鹿半島における女性同士のつながり 宮城県石巻市牡鹿地区に近世から続いた女性講集団(じょこうちゅう)を調査し、その変容する姿を描く。

おんなの身体論

鈴木明子著 2018.10刊/A5判・216頁/4800円
月経・産育・暮らし 月経名称とその意識の変遷を歴史的に追い、現代の事例から考察。更にお産を身体技法から読み解く。地域の事例2編ほか。

オビシヤ文書の世界

水谷類・渡部圭一編 2018.10刊/290頁/3800円
関東の村の祭りと記録 村の鎮守祭祀であるオビシヤ行事。それを記録した「オニッキ」と呼ばれる史料が、連綿と受け継がれてきた。(A5判)

地方史文献年鑑 2018

飯澤文夫編 2019.10刊/A5判・658頁/25800円
郷土史研究雑誌目次総覧22 2018年に刊行された地方史研究雑誌1591誌の目次を、県別・雑誌ごとに収録。連絡先・所蔵先等の他、雑誌索引を付す。



岩田書院

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-25-6-103【価格は税別】
TEL:03-3326-3757 FAX:03-3326-6788 <http://www.iwata-shoin.co.jp>